

環境レポート 2015

ENVIRONMENTAL REPORT



世の中に役立つ、新しい製品・サービスを提供し、持続可能な社会づくりに貢献して参ります。

弊社は、「人類文明の成長を支えるため、人財・創造性・科学技術を核として、事業を行い、その寄与度を高めるために成長する」ことを経営理念とし、経営方針第1項には「安全操業を最優先し、従業員、協力会社社員、地域住民など関係者の安心できる操業環境を確保する」を挙げ、従業員の行動指針においては「常に安全を優先します」を第1項としております。

また環境調和型社会に向けたイノベーションにおいては、素材産業の果たすべき役割はますます大きくなってきております。我々は、お客様、地域社会、従業員など利害関係者の皆様とのご理解を深めつつ、操業における安全確保と環境負荷低減を更に進め、世の中に役立つ、新しい製品・サービスを提供し、持続可能な社会づくりに貢献して参ります。

2014年度は、省エネルギーにおいて、配管の漏れによるエネルギーロス、廃熱の削減に努めました。またPRTRにおいては、VOC回収装置の稼働状況見直しなどにより、大気排出量約40%(2013年度比)の削減を実現することができました。

すでに弊社では、品質管理面では品質マネジメントシステム(ISO9001)を、環境管理においては、環境マネジメントシステム(ISO14001)を導入しておりますが、これらに加え、化学業では先進的な取り組みとなる事業継続マネジメントシステム(ISO22301)を2013年度に導入し、事前リスクアセスメントによる対策の洗い出し、災害発生時に影響範囲を最小化する初動対策、環境影響を最小限に抑え復旧までも視野に入れた事業継続性の強化にも一層力を入れております。

環境影響を最小化し、安全を確保するために、法令順守はもとより、開発～各操業工程における、排水、排気、危険性、有害物質、災害リスクなどは可能な限り事前に定量化し、その一つ一つに具体的な基準を設け、モニタリングや低減の対策を講じております。またリスクが想定される事象に対しては、可能な限り科学的に想定事象を解析し、対策を講ずることに力を入れており、昨年度は全社的に外部講師も招き、静電気安全に力を入れて参りました。

労働安全衛生面におきましても、リスクアセスメントを工程別に行い、ハインリッヒの法則に従い小さな事故も見逃さず、過去事例も踏まえて各種作業における労働安全教育に力を入れております。またメンタルヘルスでは外部機関を招き、従業員が心身共に健康に過ごせるよう、力を入れております。

このように製品・サービス・操業すべての面において環境調和型の事業運営を高めていくには、株主様、地域の皆様、お客様、従業員、公官庁のみなさまのご理解を得ながら、みなさまと歩みを共にしてゆくことが、最も大切と考えております。引き続き、皆様に信頼される企業を目指し、環境負荷を低減しつつ、地球環境に寄与する高品質な製品の安全生産に努めて参ります。

どうかみなさまの一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



2015年9月
東洋合成工業株式会社 代表取締役社長

木村 有仁

東洋合成工業株式会社は電子部品製造用材料の生産、調合香料用材料の生産、化学製品の生産に使う溶剤のリサイクル、液体石油化学品の省エネルギー物流等を通じて社会に貢献します。

私達はこの企業活動で地域社会が負う環境負荷が最も低く抑えられるよう努めます。会社の活動が地球環境の改善に貢献できるように指向します。

目標

環境保全と安全操業を経営の重要課題と位置付け、各事業所は内に向かっては「社員の安全と健康」を、外に向かっては「地域環境の保全」を念頭に企業活動を推進します。

法の遵守

環境保全の諸法令を遵守し、地域の住民の声にも耳を傾けるように全従業員に徹底します。

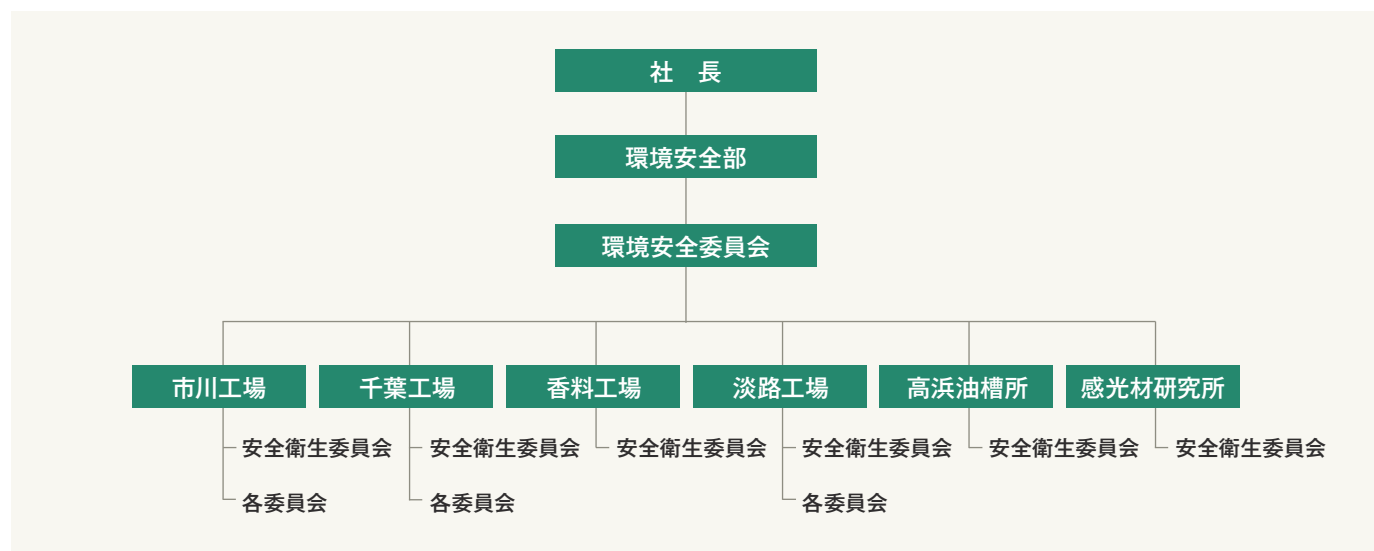
具体的な取り組み

- 1 生産活動の中で、大気、河川に放出する化学物質の低減を最優先課題とし、改善の長期計画を作成しそのプログラムに沿って毎年低減させます。また、環境への負荷、排出量を公表します。
- 2 蒸気、電力の消費を節減し、毎年生産される製品のエネルギー単位の低減に努めます。
- 3 廃棄物の発生量削減と自社内での無害化処理を促進し、廃棄物の3R(Reduce、Reuse、Recycle)を推進します。
- 4 新規化学物質のみならず、国際的な既存化学物質の安全性見直しに適合するように、再評価を行います。
また、試験生産の段階より従業員の健康に及ぼす影響や、環境に及ぼす影響も評価し企業活動に反映させます。

東洋合成工業株式会社 代表取締役社長

木村 有仁

環境・安全管理の組織



市川工場

千葉県市川市上妙典1603番地

工場長 柳沢 篤



防火体制強化の取り組み

2014年度は防火体制の強化を目指し、屋内、屋外消火栓による放水訓練や安全教育を計画的に行いました。工場全体での屋外消火栓稼働訓練を2回、屋内消火栓稼働訓練を2回、その他生産グループによる夜間の消火訓練を11回実施しました。



放水訓練の様子

OSHMSの定着

労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)を2006年度に導入して以来、安全衛生管理が確実に定着しておりましたが、2014年度は1件の労災事故が発生しました。

再発防止・労災ゼロを目指し、工場施設の管理と、従業員への安全教育を継続的に実施します。

衛生面では、労働安全衛生法の改正により、2015年12月に施工される「ストレスチェック制度」に対応し、厚生労働省の「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に従い、従業員の心の健康づくり及び活気ある健康づくりに取り組むことを目的として、管理監督者を含む全従業員にメンタルヘルス研修を実施しました。この研修によって、一人ひとりが心の健康問題を理解し、心の健康づくりにおけるそれぞれの役割を果たせるようにしました。



安全教育の様子

省エネへの取り組み

市川工場は、エネルギーの使用量が大きい第1種エネルギー管理指定工場であるため、各種の省エネ対策に取り組んできました。

圧縮空気・窒素・酸素・蒸気の漏れがあった場合、エネルギー損失が大きいため、リーク(漏れ)診断を定期的に行っています。

その他、昨年度は昼休憩時の各居室や実験室の消灯を実施し、更には24時間使用する分析室の蛍光灯をLEDに変え、スイッチも2か所に増やしてこまめにON/OFFが出来るようにして省エネを行いました。

また、生産時に使用する蒸気から発生するドレン水の回収率を向上させる取り組みを行ない、水のユーティリティコストを削減することもできました。

臭気・VOCの排出削減

2006年度より継続的に臭気・VOC(揮発性有機化合物)低減対策に取り組んでいます。

臭気は各発生源に吸引用のダクトを設置して、ポンプで吸引し、まとめて吸着・脱着して回収、処理しています。2014年度は濃度の高い臭気にも対応できるよう、臭気対策施設の改修工事を行いました。

千葉工場

千葉県香取郡東庄町宮野台1番51号

工場長 林 孝雄



環境安全活動の取り組み

「安全を常に優先にする」ことを基本に、新規開発から製品化に至る各々の工程において危険性や有害性など安全性を定量的に評価し、除害設備の設置、適正保護具の着用、化学物質管理の徹底など、安全と環境を優先した取り組みを展開しています。

また、工場内に化学消防車を配置し、自衛消防隊・自衛防災組織が万一の事態に備え日頃より訓練を行うなど、さまざまな安全活動を実施しています。

今後も引き続き千葉工場で働く一人ひとりが「安全・環境」を第一に考え、工場一丸となって労働安全衛生の水準向上、事故の風化防止に取り組んで参ります。



自衛消防隊化学班 放水訓練



自衛消防隊放水班 放水訓練



消火ポンプ起動方法の説明会



安全強化月間 安全強化者の任命

リスク管理活動の取り組み

職場に潜む様々なリスクを洗い出し、評価し、対策を講じることでより作業の安全性の向上を進めています。

特に過去の事故を教訓に静電気対策に力を入れており、専門家による実地指導や社内講習会を通して知識の向上を図り、静電気によるリスクを再評価し対策の実施を行っています。

また、従業員が体験したヒヤリ事例や気掛かりな事を「ヒヤリハット・気掛かり」報告として安全衛生委員会で共有し、不安全箇所の対策、危険情報の共有を行っています。



リスクの洗い出し



安全啓蒙活動

事業継続計画 (BCMS) の取り組み

近年頻発する自然災害(地震、豪雨、落雷、雪等)による災害の拡大防止のため、緊急事態初動対応訓練を定期的を実施し、工場の停止を最小限にする取り組みを進めています。

また、千葉工場で生産される製品は市場ニーズの高いものや、最先端産業に使われているものが多いため、ISO22301(事業継続マネジメントシステム)を通じて供給責任を果たして参ります。

大気汚染防止への取り組み

2012年度、2013年度は、腐食の影響によりVOC(揮発性有機化合物)燃焼設備の稼働を停止しておりましたが、2014年度には燃焼設備の全面補修を行い、腐食原因の管理強化に取り組んだことにより、大気への排出量を削減することができました。

今後も継続的に地球温暖化防止や省エネルギー、資源循環の問題に取り組むため、VOC吸着設備を導入し、2014年11月より稼働を開始しています。

水質汚染防止への取り組み

2013年度より水質管理強化として、排水処理場の状態を従来より短時間で把握できるTOC計(全有機体炭素計)を導入しました。

また、2006年度より実施している地下水汚染防止対策においても改善が確認されていますので、2015年度も引き続きバリア井戸や河川等の監視に努めて参ります。

心の健康づくり推進への取り組み

メンタルヘルスの取り組みが重要視されている事から、2010年度より「心の健康づくり推進」をスタートし、2014年度は外部機関による「メンタルヘルスケアセミナー」「AED取扱い説明会」、産業医による「生活習慣と健康講話」を開催しました。

また、職業性ストレス簡易調査や体力測定を行うなど、従業員が心身共に健康に過ごせる環境づくりを目指しています。

2015年度も千葉工場で働く一人ひとりとその家族の幸福な生活、活気ある職場づくりのために、さまざまな取り組みを推進して参ります。



メンタルヘルスケアセミナー



AED取扱い説明会

高浜油槽所

千葉県市川市高浜町7番地

油槽所所長 鈴木 城治



安全への取り組み

① 安全強化日の設定

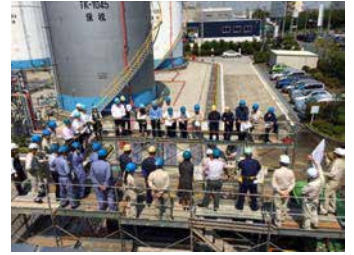
高浜油槽所では、毎月第3火曜日を安全強化日に設定し、イベントを開催しています。2014年度のイベントは、若手社員がリーダーを務め企画を行いました。

「オーバーフロー撲滅」を企画した月には、安全強化日を3日間設定し、イベントを述べ9回開催しました。これには従業員のみならず、運送会社や荷主に加え、他事業所からも参加者が集まり、今まで開催したイベントの参加者としては最高の合計255名が参加しました。このイベントにより、当社以外の安全意識向上にも広く貢献することができました。

2015年度も引き続き、広く社会に貢献できる安全活動に取り組んで参ります。



安全強化日の様子①



安全強化日の様子②

② 安全講習会の開催

「わかりやすい安全講習会」の開催を目指し、若手社員が中心になって講習会を企画・開催しました。若手社員が準備した講義内容は非常にわかりやすく、受講生にも好評でした。

高浜油槽所のこうした「若手を育てる」取り組みは、若手社員のみならず、油槽所全体のスキルアップにもつながっています。



安全講習会の様子①



安全講習会の様子②

③ 見える化への取り組み

高浜油槽所では、事故防止のために「見える化委員会」を立ち上げ、積極的に見える化を推進しています。

例をあげると、ドラム充填の際に配管要素へタンクナンバーを表示することにより、ホースのつなぎ間違えを防止しています。これは安全性向上だけでなく、作業効率の向上にも役立っています。

また、油槽所の接続仕様を見る化し、ドライバーに注意喚起を行うことにより、ローリー車の接続仕様の違いによる漏洩事故を予防しています。



充填配管への見える化



ホース接続仕様の注意喚起

省エネへの取り組み

高浜油槽所は製造工場ではないため、他の事業所と比べると大規模な省エネを実行するのはなかなか難しい事業所です。

それでも、省エネ委員会を発足し、個人個人で省エネの意識を高めることにより、電気や窒素ガス、水などのユーティリティや消耗品を削減することができました。



省エネ対策の効果

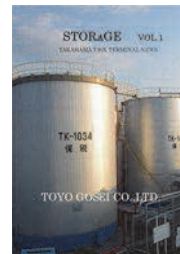


ユーティリティへの省エネ対策表示

高浜油槽所情報誌「STORAGE」創刊

高浜油槽所の魅力をPRする情報誌「STORAGE」を創刊しました。記者はすべて女性従業員で構成されており、女性の目線から見た高浜の魅力が詰まった、スタイリッシュな情報誌ができました。

創刊号では、物流拠点として外環道が開通したらどれだけ便利になるかを詳細にレポートしました。レポートの結果、外環道開通により物流コスト等の削減と、ドライバーに精神的な余裕が生まれるため安全運転につながり、事故が起きにくくなるのではないか、というメリットを見出すことができました。この情報誌はドライバー、運送会社、荷主の皆様非常に好評で、次号も楽しみにしているという嬉しいお声をいただいています。



STORAGE創刊号



外環道進捗状況レポート

感光材研究所

千葉県印西市若萩4丁目2番1

研究所所長 森 寧



周囲の環境に溶け込む研究所

敷地北側からはすぐに里山が望まれ、南側には静かな住宅街がひろがる感光材研究所。恵まれた自然を大切に、そして近隣の皆様に安心していただける環境の維持に留意して、研究開発に取り組んでいます。棟内の実験室では技術の高度化・産業エネルギー消費の漸減を目指す先端的研究開発が常に行われていますが、研究所の佇まいは静か。広い敷地に整えられた、植栽の維持管理にも細心の注意を払っています。

気候の年間変動や国際的資源環境の大きな変化・不確定性のなか、エネルギー・資源の利用についてさまざまなオプションを持つことは人々の暮らしの安定と福祉のためにも大切なことです。われわれ化学研究に携わる者は、地球環境と生物の安全のため、よりよい解を製品・知財の形で世に問うのはもちろん、自らの足許の環境についてもとくに注意を払う責務を負っております。

当研究所では省エネ型空調設備・省エネ型照明などを逐次導入し、電力使用量削減に努めています。水道使用量、可燃ごみの排出量も大きく低減させ、研究所の規模に比して低い数値を保っています。



感光材研究所 外観

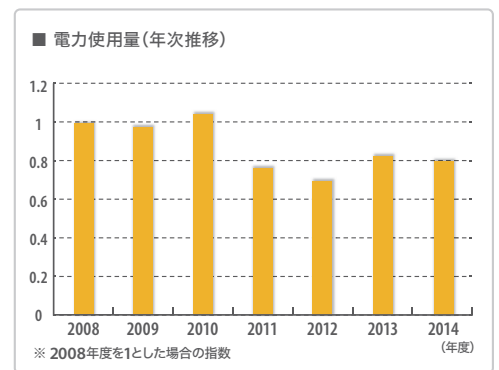
① 電力使用量の削減

2012年度の電力使用量は2008年度と比較して27%削減されました。そのように全体的な削減傾向は維持していますが、2013年度は年間電力総使用量で、前年度を約12%上回りました。

精査しますと、昨冬の寒さの厳しさ、2月の豪雪が影響して冬期の電力使用が増大したこと及び同じ時期に研究開発活動の活発化による機器使用台数・時間が増えたことが原因と見られます。ただし、やはり暑かった夏期のピーク時には前年比減を達成しています。

その後、研究所の活発な研究開発活動を支える試験機器、空調装置等をすべてリスト化し、稼働時間の調整などで研究活動と省電力を今後も両立させていくため、具体的な対策・運営方法を検討しました。

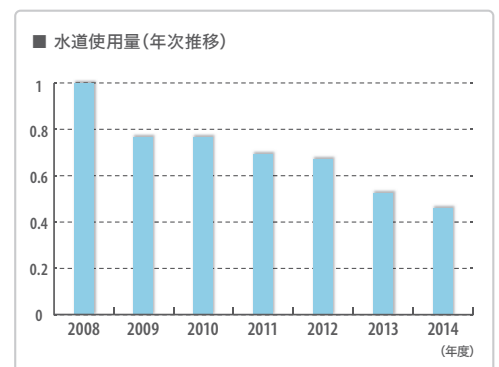
そうした努力の甲斐あってか、2014年度の電力使用量は再び減少傾向に転じました。今後も経験と知見の集積を通して、社会全体のエネルギー基盤を意識した研究所運営に努めて参ります。



② 水道水使用量の削減

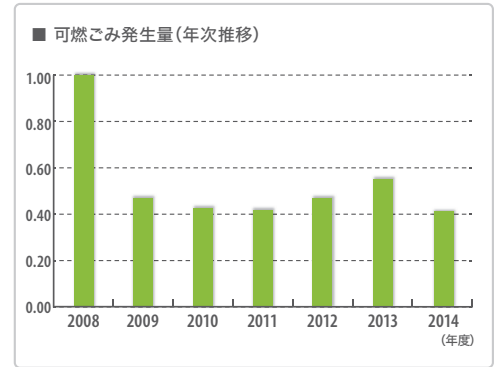
水道使用量については、ここ数年着実に削減を実現してきております。削減活動には2009年度から意識を強めて取り組んでおり、2013年度には試験研究に必要な冷却用水に循環装置を一部導入するなどの工夫をいたしました。節水意識も浸透させて、2014年度の水道使用量はさらに減少しております。

効果を定量的に検証しながら、引き続き合理的な水利利用を目指していきます。



③ 可燃ごみの削減

2009年度からゴミ削減活動を開始し、3年間の活動で2008年度比、59%の削減を達成しました。2013年度には、研究所の人員増・研究活動の活発化に伴って微増となりましたが、昨2014年度には増加した人員の態勢のまま、再び排出量削減に向かうことができました。



安全衛生への取り組み

工場での生産に繋がっていく試験研究の段階から、使用物質の適切な取り扱いが全社的な高い基準となっていくよう、教育に意を用いています。

所員の定期健康診断を実施し、安全・衛生の文化を重視した研究活動を進めています。

労働災害事故は昨年度もゼロでした。

地域との交流

近隣の「いにはの小学校」に朝日写真ニュースを寄贈しています。研究所テニス部のコートが隣接する公園の公設テニスコートに近いこともあり、休み時間や休日にも地域との交流が生まれています。

地元の学区とも協力して「子ども110番」に事業所として参加しています。

香料工場

千葉県香取郡東庄町宮野台1番58号

工場長 田村 鉄男



労働安全衛生への取り組み

香料工場が操業を開始してから早くも3年が経過しました。

操業当初から品質マネジメントシステム(ISO9001)・環境マネジメントシステム(ISO14001)及び、食品衛生管理分野のHACCP※、KOSHER※の適合認証を取得し、システムを継続維持してきました。

安全衛生分野では、5S活動やKYTを通じて事故の未然予防に努め、労働災害ゼロを目指しています。

また、社の行動指針である「常に安全を優先する」ことを実現するため、防災訓練や安全啓蒙活動、安全パトロール、リスクアセスメント、静電気教育等を実施しています。中でも特に、事故例を教材とした危険予知トレーニングに力を入れています。

その他、地域社会貢献の一環として、社員による工場周辺の一斉清掃活動も実施しています。

※HACCP … 食品の製造・加工工程のあらゆる段階で発生するおそれのある危害をあらかじめ分析し、製造工程のどの段階でどのような対策を講じればより安全な製品を得ることができるかという重要管理点を定め、これを連続的に監視することにより製品の安全を確保する衛生管理の手法

※KOSHER … ユダヤ教の資格を持ったラバイ(ユダヤ教の指導者)から、ユダヤ教の教義に従った安全な食品であるという認定を受けることにより、コーシャの認定のマークやロゴで表示することが出来る制度



安全教育の様子



放水訓練の様子



工場周辺の清掃活動

省エネへの取り組み

生産における省資源の推進として、原料の削減、工程ラインの改造、反応時間の短縮等を行い、工程ロスを最小限にすると共に、収率向上にも取り組んでいます。

また、ソーラーシステムの導入や昼食時の消灯、LED照明への転換を行い、限りある地球資源を守るために、工場全体で省エネ活動に積極的に取り組んでいます。



ソーラー水循環器

排水汚濁防止の取り組み

香料工場放流排水の水質環境基準遵守のため、工場排水は一度工場内にある調整池に溜め、水質基準が適正範囲にあることを確認の上、河川に放流しています。

調整池内の水質基準を管理するため、ソーラーシステムを動力源とする強制水循環装置の導入を行いました。

昨年度からは、調整池の水質が基準内で安定しているため、池の中で錦鯉の飼育を始めました。

また、その他一部発生する廃液に関しては、外部処理業者に委託し適正に処分を行っております。



調整池



錦鯉

淡路工場

兵庫県淡路市生穂新島9番1

工場長 佐々木 広幸



安全操業への取り組み

淡路工場が2013年度より操業を開始してから早いもので2年が経過しました。工場運営管理体制の取り組みとしては、2014年1月に品質マネジメントシステム（ISO9001）を、2014年3月には環境マネジメントシステム（ISO14001）を認証取得し、1年間継続的に維持・管理しております。また、2014年度は総合防災訓練を2回実施し、通報訓練・消火訓練に合わせ、津波対策として防潮堤の構築訓練も実施することで、防災体制を確立・維持しています。

安全操業の取り組みとしては、淡路工場は30人に満たない少人数の事業所ですが、自主的に安全衛生委員会を毎月開催し、安全パトロールの実施報告、ヒヤリハット報告、リスクアセスメント報告を実施しています。安全衛生委員会で報告のあった不安全箇所・不安全作業については、対策及び注意喚起を行い、常に安全操業を目指しています。また、安全週間では安全講和と安全教育を実施しています。衛生面では、新規取り扱い物質のSDS（安全データシート）教育の実施や産業医の個人面談を実施し、心身のケアも行っています。



淡路工場正面玄関防潮堤設置



総合防災訓練放水訓練

省エネの取り組み

電気の省エネに関しては、まずソーラーパネル（10kW×2基）による太陽光発電を行っています。また、使用量については、冷却塔ファンの自動運転による台数制御運転と、電動機をインバーター化することにより削減しています。

また、熱の省エネに関しては、発生した蒸気を一度生産プラントで使用した後に、90%以上の高回収率で給水タンクへ戻し、熱損失を最低限に抑えています。蒸気については、化石燃料では一番クリーンなLNGを燃焼してボイラーで蒸気を発生させています。

また、製造工程時間の短縮や設備能力を最大限に利用して高効率化することによる省エネにも積極的に取り組んでいます。



ソーラーパネル



自動運転中冷却塔ファン

臭気・VOC削減の取り組み

臭気・VOC（揮発性有機化合物）対策として、製造設備・タンクヤードからの排出ガスは直接大気に放出せず、湿式の排ガス処理装置にて処理してから大気へ放出しています。また、製品の屋内充填所から発生するガスは、乾式の排ガス処理装置（吸着式）による処理の後に、大気へ放出しています。

生産時には従業員による構内巡視を1日に2回実施して、臭気の発生や異常の有無を確認しています。



湿式排ガス処理装置



乾式排ガス処理装置

排水の負荷低減

淡路工場には排水自社処理装置がないため、生産から発生するプロセス排水は公共用水域（海、湖沼、河川）には排出していません。プロセス排水は一度排水タンクにストックして分析を実施し、淡路市の下水処理場排水基準を厳守して排出しています。雨水に関してはプロセス排水とは混合しないように完全分離し、雨水ピットに一時保管した上で水質を分析管理し、排水基準をクリアしていることを確認してから大阪湾に放流しています。

その他の高負荷排水は、外部処理業者との委託契約を締結し、分別廃棄することにより適切に処理されています。また、一部は有価物として再資源化されています。

大気・水質

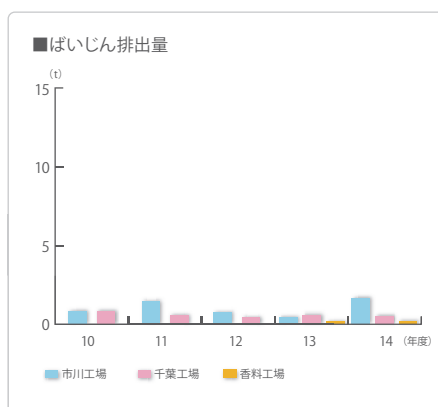
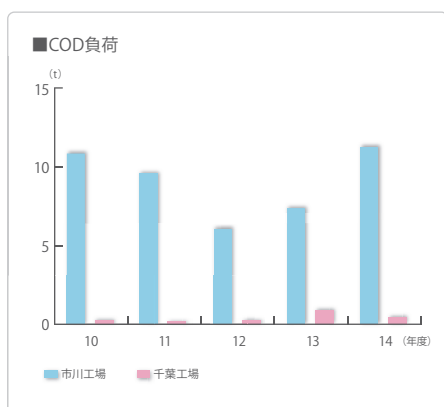
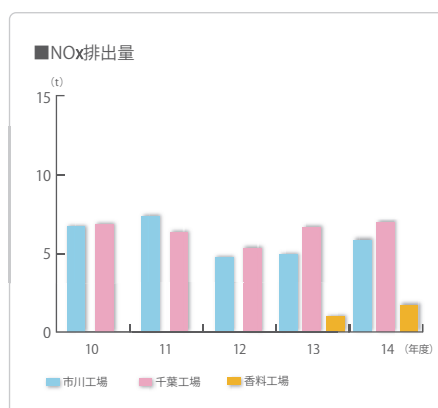
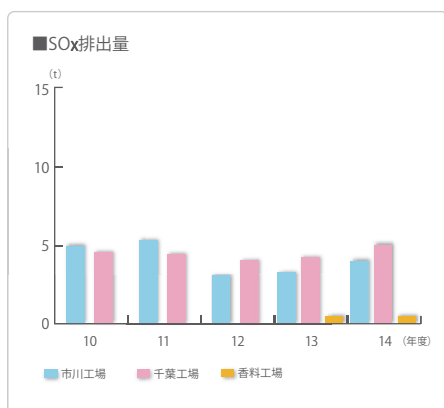
大気に対する負荷

市川工場、千葉工場及び香料工場合計で、SOxは前年度比約9%の増加、NOxは約10%の増加となりました。SOxは、使用する燃料の硫黄含有量にも影響されますが、3工場のA重油使用量が約11%増加したことが影響しています。淡路工場は、ボイラー燃料としてLNGを使用しており、環境への負荷は少なくなっています。

水質に対する負荷

市川工場では、COD負荷は44%増加しましたが、排水基準値を順守し、廃棄物として外部処理していたものから選別・自社廃水処理場で処理をすることで、産業廃棄物の減量化を進めています。

千葉工場に於いても、TOC計(全有機体炭素計)を導入し、排水処理管理を強化しています。COD負荷は44%減少しました。安定した処理状態を維持しています。



PRTR

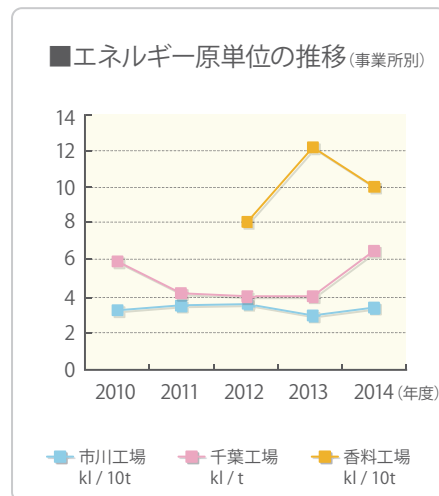
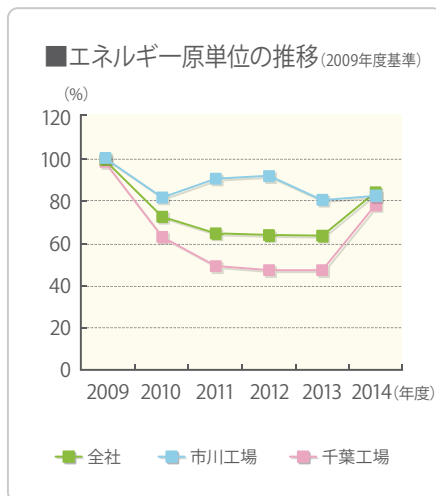
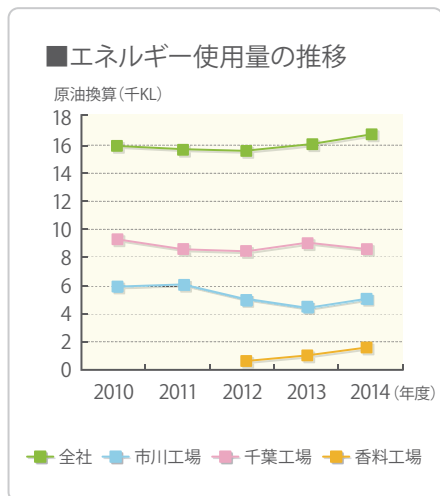
ベンゼンの大気排出量は、前年比約60%の削減となりました。これは吸着処理装置のPSAとKフィルターが安定稼働したことによります。また、ノルマルーヘキサンも同時に回収されることにより、大気排出は減少しています。

1,4-ジオキサンは、約55%の削減となりました。VOC燃焼設備の一部稼働と、それに代わって導入したスプレー塔の稼働が貢献しました今後も、安定稼働に努めて参ります。

塩化メチルは、現像液の原料として使用していましたが生産を中止したことにより、大幅に減少しています。



エネルギー



エネルギー使用量および原単位の推移

全社のエネルギー使用量は、前年度比4.6%の増加となりました。千葉工場は減少しましたが、市川工場、香料工場及び淡路工場が増加し、全体として増加となりました。香料工場は、一昨年のエネルギー使用量が1500kl(原油換算)を超えたことにより、本年2月に第二種エネルギー管理指定工場に指定されました。管理体制を整備し、省エネルギーを推進いたします。指定を受けている市川工場、千葉工場、香料工場の3工場で、全社の87%のエネルギー使用量となっています。各工場は、各種の省エネルギーの取組をおこなっております。しかし、市川工場では品質向上の為、装置洗浄回数とプロセス工程回数の増加により原単位が僅かに悪化しました。また千葉工場では現像液の生産を中止したことにより、エネルギー使用量も減少しましたが、生産量が前年比の約60%となり原単位に大きく影響がでました。

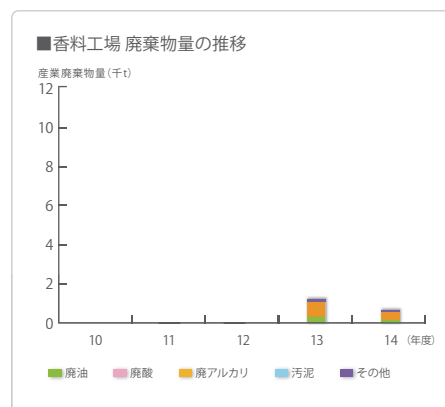
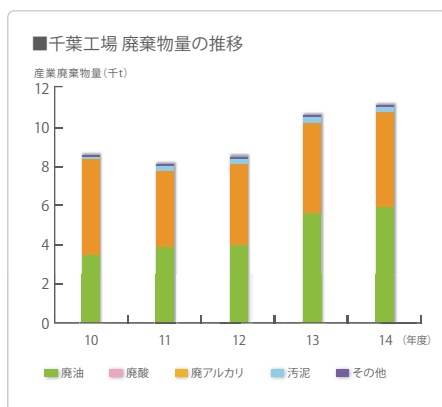
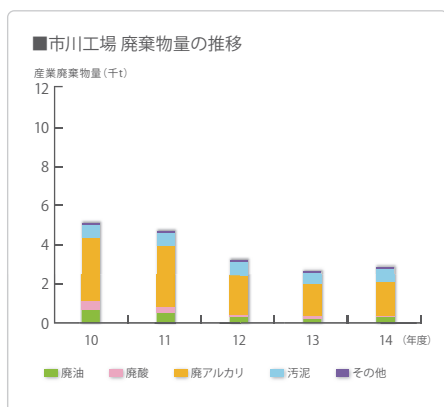
廃棄物および再資源化

廃棄物の取り組み

市川工場の廃棄物は、前年度比約6%の増加となりました。生産量の増加が影響しています。廃油の選別による燃料化では973klの実績となり重油の使用量を削減できました。また、廃液の分別化により、自社廃水処理施設での処理を進めることで、産業廃棄物の削減に努めています。

千葉工場の廃棄物は、前年度比4%の増加となりました。廃油が約5%の増加しました。この要因として、多様な溶剤を使用する製品が増加しているためです。千葉工場では、溶剤回収プロジェクトを継続し、各グループの課題を明確にして、減量化を進めています。

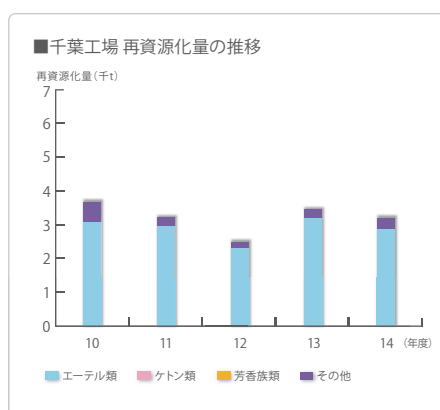
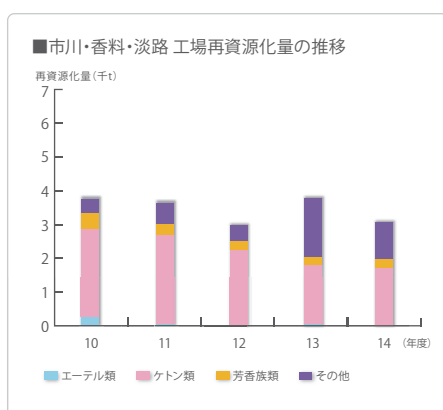
香料工場は、生産量は増加していますが、廃液の分別化を進め、産業廃棄物は、約45%の削減を達成しています。



再資源化の取組み

市川工場の再資源化量は、前年度並みとなりましたが、香料工場、淡路工場の溶剤の再資源化の減少の影響により、3工場合計では、前年度比12%の減少となりました。

千葉工場では、主に工場内で使用した廃溶剤を蒸留精製し、再資源化を行っています。2014年度は、生産量の減少に伴い、6%減少となりましたが、再資源化率は99%以上と、高い回収率で推移しています。



安全啓蒙活動

高浜油槽所発祥の安全啓蒙活動ですが、各事業所においても若手社員が、企画、作成、発表を受け持ち、定着してきました。

市川工場



担架の扱い方



安全帯の使用方法



工作機械の取扱い方法

千葉工場



電気火災の危険



静電気の危険



リーファーコンテナの使用法

香料工場



空気呼吸器装着訓練



電気について



漏洩対策訓練

安全活動

静電気講習

産業安全技術協会に依頼し、講師を招き継続して講習を実施しています。内容は、年ごとにレベルを少しずつアップしてもらい、多くの社員が受講しています。本年10月にも実施予定です。



市川工場での静電気講習①



市川工場での静電気講習②



千葉工場での静電気講習①



千葉工場での静電気講習②

安全パトロール

各事業所では月1回、安全パトロールを実施しています。必ず他事業所からの参加を要請し、継続して実施しています。他者の目で確認するとともに、良い点は各事業所に持ち帰って展開してもらう活動となっています。



高浜油槽所 安全パトロール①



高浜油槽所 安全パトロール②



千葉工場 安全パトロール①

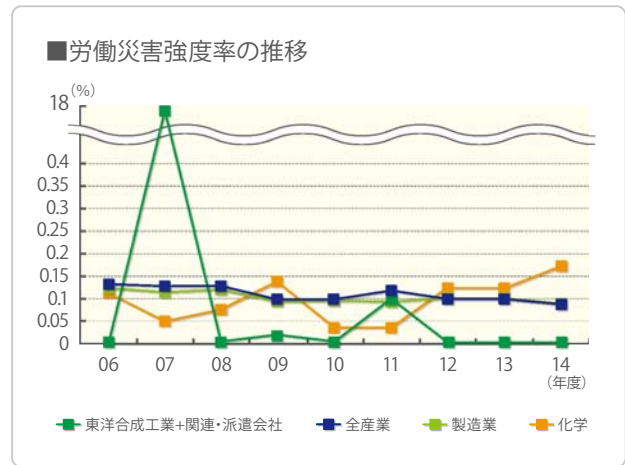
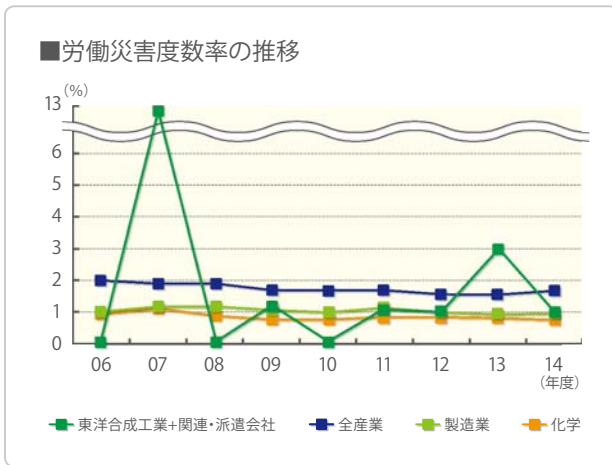


千葉工場 安全パトロール②

労働災害度数率・強度率の推移

当社では、従業員、協力会社社員、地域住民など関係者の安心できる操業環境を確保することを大前提とし、安全を優先した事業活動を行っております。

本年は、設備の安全対策、従業員・協力会社社員への安全教育に力を入れ活動して参りました。度数率・強度率は昨年より改善することができましたが、無事故・無災害の達成には至りませんでした。今後も引き続き、安心・安全な職場をめざし、安全活動に積極的に取り組んで参ります。



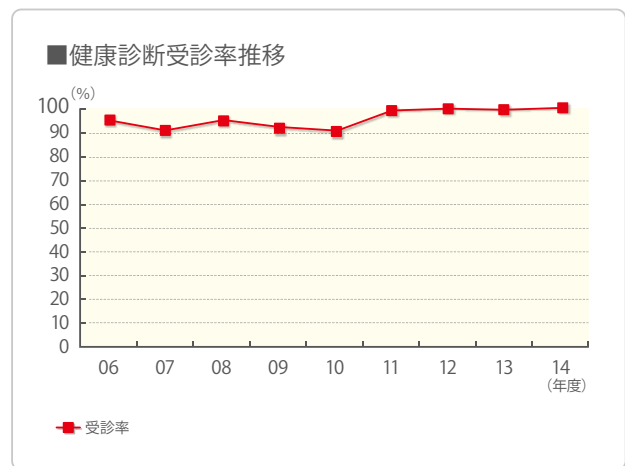
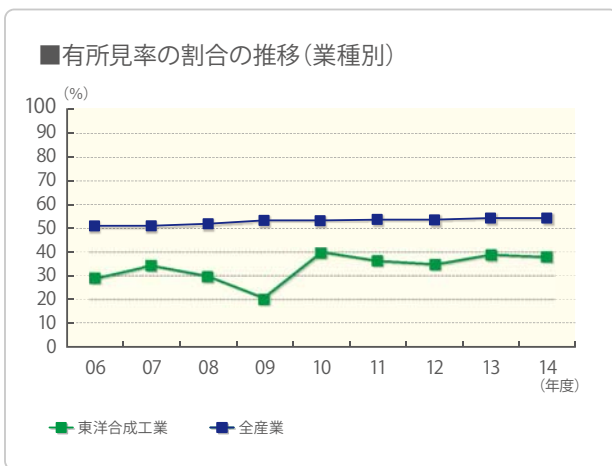
労働災害強度率:1,000時間当たりの災害の軽重を示す数値
 労働災害強度率=労働損失日数÷延労働時間数×1,000

健康管理

昨年に引き続き、健康診断の受診率100%達成に向けて、各事業所での法定健診受診を徹底致しました。本年は定期健康受診率99.62%と、100%にあと一歩及びませんでした。今後も受診率100%達成に向け、従業員個人の受診状況管理を徹底します。

また、有所見率については昨年より0.6%減の38.8%となりました。

昨年に比べ有所見率は減少しましたが、従業員の健康に対する意識を高めるために、健康増進啓発活動や、有所見者に対する産業医指導とフォローを推進して参ります。



米国HCS改正規則の実施

2012年3月26日付けの官報において、国連の化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS）に準拠して、危険有害性周知基準（HCS）を改正する最終規則を米国の労働安全衛生局（OSHA）は告示しました。

HCS改正規則は、国際的な化学品の分類・表示の調和へ参入すると共に、危険有害物質からの労働者の安全確保をより向上させることを目的としております。

本年は、そのHCS改正規則の期限の年となります。

当社は対象製品について、HCS改正規則のGHSに準拠したSDSとGHSラベルを作成し、米国へ輸出、販売活動を進めて参ります。

4NT-300	
	
Danger	
Hazard Statements (H): H302: Harmful if swallowed or inhaled. H314: Causes severe skin burns and eye damage. H335: Irritation to the respiratory system.	
Precautionary Statements (P): P201: Read all hazard statements before use. P202: Do not handle until all safety precautions have been read and understood. P231: Keep away from heat/spark/open flame. - No smoking. P232: Keep away from oxidizing/combustible materials. P234: Keep only in original container. P280: Wear protective gloves/protective clothing/protective footwear.	
Response (R): R302+R312: If swallowed or inhaled: Get medical attention. R373+R378: In case of fire: Use dry chemical powder, carbon dioxide, sand, water spray or foam for extinction.	
Storage (S): S232+S233: Store in a well-ventilated place. Keep cool. S240: Store locked up. S251: Store at temperatures not exceeding 10°C. S260: Store away from other materials.	
Disposal (D): D501: Dispose of contents and container according to the requirements by the regulations.	
 	
Company Name: TOYO GOSEI Co., Ltd. Address: 1-6-1 Miyasaka, Tomioka-machi, Kashi, Chiba, 288-0823, Japan Emergency Phone Number: +81-475-87-1111	

アジア化学物質管理政策への対応

お客様に弊社製品を安全に正しくご利用いただくために"安全データシート"、及び弊社製品を安全且つ適切に配送するために製品梱包容器側面添付する"ラベル"の作成を、2003年国際連合から勧告されたGHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals) に基づき実施しております。

本活動は、法令遵守に基づくものであり、日本国内のお客様に出荷される製品のみならず、諸外国に拠点を置かれるお客様に向けて出荷されるものにも適用されます。

東洋合成工業では、お客様のビジネス展開が、安全に基づくことを確実にするために、今後とも日本国内及び諸外国の化学物質規制の情報収集と適用に努めて参ります。



地域内清掃活動

今年も千葉工場では、夏季および冬季休暇前に工場外周の清掃活動を実施しました。

夏季清掃活動は、8月12日に猛暑のなか実施し、75名の参加がありました。



夏季千葉工場清掃活動



工場周囲の道路を清掃している様子

写真ニュースの寄贈

弊社では、市川工場近隣の2校、千葉工場近隣の2校及び感光材研究所近隣の1校に、継続して写真ニュースを寄贈する活動をしています。

今年も学校より、感謝のしがきを頂きました。今後も少しでもお役に立てればと考えています。



写真ニュース掲示板

東庄ふれあい祭り

社員の自主的な活動で「東庄ふれあい祭り」に参加しました。今回で、連続11回目の参加となりました。



当日の様子



参加メンバー